

声掛けを工夫し、初回面談へと誘導 システム化と多様なアプローチ法で中断を防ぐ



大阪府大阪市

一般財団法人 大阪市環境保健協会

健診受診者数：3,583人
特定保健指導対象者数：729人
初回面談実施人数：666人
初回面談実施率 **91.4%**

※令和5年度に実施した協会けんぽの生活習慣病予防健診・事業者健診に基づく健診機関における実績値

お話を伺った方

管理栄養士 長光 礼加 さん(左) 江口 すみれ さん(右)
理事長 松本 進 さん(左下)
事務長 福本 幸子 さん(右上)

point

01 無理のない目標設定と電話・メール等での細やかな支援

当協会では、血液検査を外部に委託しているため、腹囲やBMIの結果から特定保健指導の対象となる可能性がある方に健診当日に初回面談を実施しています。

健診受診の数日前までに過去3年分の健診結果や病歴、過去に対象となった方であれば特定保健指導内容などをプリントアウトして準備しています。**履歴を見ることによって、過去に中断してしまった方へのアプローチ方法の改善**にもつながられます。そして、特定保健指導の対象になる可能性があるか否かの判断を、腹囲・体重を測定後すぐ判断し、看護師や受付スタッフと連携の上、もれなく初回面談を案内するようにしています。

初回面談では「習慣化の大切さ」をお伝えしています。生活改善が一時的な取組にならないように、「白米を3口減らす」「階段を使う」など、**無理なく続けられる計画目標を設定**していただきます。

初回面談1週間後の電話連絡で、計画をまだ進められていないことがわかった場合は、「生活習慣を見直すことで改善できる可能性が高いので、健康のために続けてみましょう」と声掛けをしています。見知らぬ番号からの電話には出ない方も多いため、**初回面談で配布する資料にはアドレス帳登録が可能な二次元コードを掲載。その場で登録を促し、支援継続に繋げて**います。



◀初回面談で配布する資料は、毎年ブラッシュアップを重ねている。選択式のアンケートを用いることで、対象者が目標を立てやすくなるなどの工夫も。

地域の健康の保持・増進への貢献を目指して



当協会は1974年に設立し、2024年に創立50周年を迎えました。2014年、施設の独立性や品質管理など厳格な基準を満たし、日本総合健診医学会の優良認定を受けました。今年、日本総合健診医学会では「健康教育を有効に活用した国民の健康の保持と増進への貢献」を方向性として掲げています。当協会でも健診だけではなく保健指導をしっかりと取り組むことが大切だと感じており、特定保健指導はもちろんのこと、今後は健康づくりのイベントなどに積極的に参加していきたいと考えています。



特定保健指導推進の
きっかけ・背景



当協会では、制度が始まった2008年から特定保健指導を実施しています。当初は小規模でしたが、特定保健指導が第3期に変わった2018年から管理栄養士を増員し、本格的に取り組んでいます。経験豊富で高い技術を備えたスタッフが受診者さまの不安や要望にお応えできるように、丁寧に親しみやすい接遇を心がけて、日々精進しております。

point

02 声掛けを工夫し、特定保健指導へ自然に誘導

特定保健指導を本格的に取り組み始めた当初は、断られる対象者も多くいらっしゃいました。当初は「あなたは対象者でした」「特定保健指導のお話があります」という声掛けをしていましたが、「今日の計測結果についてお話があります」などと表現を工夫するようになってから、**自然に足を運んでもらえるような雰囲気づくり**ができるようになったと感じます。特定保健指導は、看護師や受付スタッフなど、他部門との連携は欠かせません。健診中に**待ち時間が発生している場合は、健診途中で対象者を特定保健指導に先にご案内するなど工夫**しています。



▲スタッフの皆さん。

point

03 システム管理と棚卸しで支援中断を防ぐ

特定保健指導は担当制ではなく、初回に面談をしたスタッフが継続支援を担当するとは限りません。どのスタッフでも引き継げるよう、**健診結果や初回面談で立てた計画目標などがわかる支援管理表をシステムと紙で管理**しています。また**月1回、棚卸しを実施し、継続支援の連絡漏れがないかなどを確認することで、継続支援の中断防止**に取り組んでいます。

支援管理表はデータと紙で保管しており、月1度の棚卸しの日にダブルチェックしています。



point

04 対象者の改善結果をやりがいに

特定保健指導を行うスタッフは、個々にスキルアップに励むほか、**相談したり事例を共有したりすることで、モチベーションアップや不安解消**につなげています。特定保健指導をきっかけに、「炭水化物の重ね食べをやめる」や「飲酒量を減らす」などの生活改善を行い、体重を減らすことができた事例をお聞きますと、「特定保健指導が少しでもプラスになっている」と、うれしく思います。

最近の事例では、継続支援期間中に体重を10kg減らされた方も。感謝していただくことがやりがいになっています。



健診機関担当者からひとこと

✓腹囲とBMIの結果で特定保健指導の対象となる可能性がある方に対し、「健診の結果についてお話があります」などと柔らかな表現を用いると、スムーズに誘導できると思います。初回面談実施率向上には、看護師や受付スタッフなど他部門との連携も不可欠です。

✓継続支援の連絡の間隔は、長すぎても短すぎてもNG。対象者さまのご意見を踏まえ、現在は24日間隔でメール等を送信しています。返信がない場合は電話をしたり、電話をかける時間帯を変えたりして、継続支援の中断防止に努めています。

一般財団法人 大阪市環境保健協会

大阪市中央区大手前2丁目1番7号 大阪赤十字会館6階・7階
<https://www.oeppa.or.jp/>

設立：1974年

事業内容：一般人間ドック、OCSドック、生活習慣病予防健診、大阪市国保人間ドック、がん検診、定期健診・OCS健診、進学・就職時健診、特定健診、オプション検査、新生児マスキューニング検査、訪問看護ステーション

